

みずほCustomer Desk Report 2019/10/21 号(As of 2019/10/18)

【昨日の市況概要】

市場營業部 為替營業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	108.72
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	108.60	1.1125	120.82	1.2871	0.6826
SYD-NY High	108.72	1.1172	121.10	1.2990	0.6857
SYD-NY Low	108.39	1.1115	120.69	1.2841	0.6821
NY 5:00 PM	108.42	1.1172	121.10	1.2990	0.6857
NY DOW	26,770.20	▲ 255.68	日本2年債	-0.2400	1.00bp
NASDAQ	8,089.54	▲ 67.31	日本10年債	-0.1500	1.00bp
S&P	2,986.20	▲ 11.75	米国2年債	1.5767	▲ 1.92bp
日経平均	22,492.68	40.82	米国5年債	1.5651	▲ 0.81bp
TOPIX	1,621.99	▲ 2.17	米国10年債	1.7519	0.27bp
シカゴ日経先物	22,525	▲ 15	独10年債	-0.3835	2.65bp
ロンドンFT	7,150.57	▲ 31.75	英10年債	0.7060	3.10bp
DAX	12,633.60	▲ 21.35	豪10年債	1.1085	4.05bp
ハンセン指数	26,719.58	▲ 128.91	USDJPY 1M Vol	5.75	▲ 0.05%
上海総合	2,938.14	▲ 39.19	USDJPY 3M Vol	5.89	▲ 0.09%
NY金	1,496.40	▲ 1.90	USDJPY 6M Vol	6.30	▲ 0.08%
WTI	54.02	0.09	USDJPY 1M 25RR	-1.05	Yen Call Over
CRB指数	175.75	0.22	EURJPY 3M Vol	6.53	▲ 0.14%
ドルインデックス	97.28	▲ 0.33	EURJPY 6M Vol	6.89	▲ 0.08%

東京	東京時間のドル円は108.60レベルでスタート。仲値にかけてはドル買いが優勢となり一時108.68を付けたものの、本日発表された中国第3四半期GDPが前年比で市場予想を下回り、英EU離脱法案が議会を通過するかどうか不透明感が漂う中、ドル円は上げ渋る展開。その後108.51まで上値重く推移するが、終盤には買戻され、結局108.58レベルで海外市場に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は新規材料難から小動きとなり、108.58レベルでオープン。108.56-108.72の小幅レンジ内での取引に終始し108.58レベルでニューヨークへ渡った。ポンドドルは明日の英下院での新EU離脱案採決を控え離脱案可決は否定できないためポンドは強含んだ。1.2865レベルでオープン。徐々に値を上げ高値1.2918を付けた。その後1.29台手前で様子見となり1.2891レベルでニューヨークへ渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 西海)
ニューヨーク	海外市場のドル円は、英議会でブレグジット採決を明日に控え、108.51-72での狭いレンジでの推移が続き、108.58レベルでNYオープン。朝方は、ドル売りが先行し、108.43まで下落する。その後も米9月先行指数が予想を下回り、米航空機大手が危険を把握していて、FAAに提出すべき重要書類を数ヶ月にわたり提出していなかったことが判明したことから、株式市場が軟化する動きもあり、円買いドル円は108.39まで下落する。午後はやや買い戻される局面もあったものの、明日の英議会で採決を控え、ポンド、ユーロが買われる動きに、ドル円は上値を押さえられ、再び108.39まで反落し、108.42レベルでクロスした。一方、本日に米国のEUに対する追加関税が発動し、EUが対抗措置の準備に入中、明日のブレグジット採決に対する期待からドル売り、ポンド、ユーロ買いが強まり、ユードルは1.1143レベルでNYオープン。朝方は海外市場で流れを受け、1.1153まで戻すが、8/26に付けた高値1.1164が意識され、1.1135まで反落する。その後は、カリダFRB副議長が「景気拡大を支えるため適切に行動する。」と発言したことから、利下げ期待にドル売りが優勢となり、ユードルは1.1159まで戻す。午後後もドル売りが継続したことから、ユードルはじり高で推移し、1.1172まで戻し、そのまま本日の高値で引けた。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はすべて銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:高根・原田 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

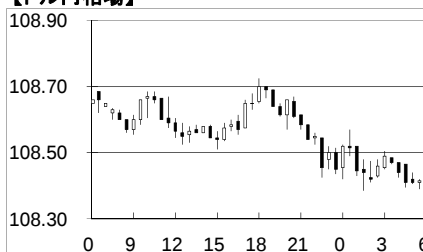
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
10月18日	08:30	日 CPI/コアCPI/コアコアCPI(前年比)	9月 0.2%/0.3%/0.5%	0.3%/0.5%/0.6%
	11:00	中 小売売上高/固定資産投資/鉱工業生産(年初来前年比)	9月 8.2%/5.4%/5.6%	8.1%/5.5%/5.5%
	11:00	中 GDP(前年比)	3Q 6.0%	6.1%
	22:00	米 カブラン・ダラス連銀総裁「米経済は良好な時期にある」		
	23:05	米 ジョージ・カンザスシティ連銀総裁「一段の景気減速なければ追加利下げ必要ない」		
10月19日	00:30	米 クラリダFRB副議長「追加利下げの必要性、会合毎に評価」		
	02:45	英 カリーニー 英中銀総裁「マイナス金利はツールに含まれると考えていない」		

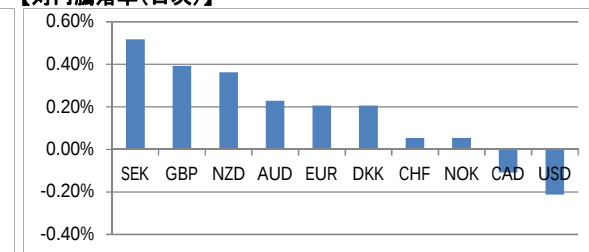
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
10月21日	08:50	日 貿易収支	9月 ¥54.0b	-¥143.5b
	15:00	独 PPI(前月比/前年比)	9月 -0.1%/-0.2%	-0.5%/0.3%

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 南アフリカランドの動向

南アフリカランドは2018年初旬にラマボーザ大統領が就任した当時のレートから約30%ほど下落している。これは財政赤字や汚職撲滅、景気底上げ等に取り組むラマボーザ政権が市場が期待するほどの成果を挙げられていないことのほか、様々な要因が関係している。今年6月には、南ア経済指標が市場予想対比下ぶれたことを背景に、ランドは下落したが、その後はFRBの利下げ期待やECBの金融緩和期待などの外部要因によりランドは下支えされる展開となった。7月には南ア準備銀金融政策委員会(SARB)は政策金利を25bp引き下げ、6.50%としたが、景気回復期待でランドは買われた。しかし、南ア長期国債格付を唯一投資適格級としている大手格付会社が、ムボウエニ財務相が発表した南ア電力公社(Eskom)追加救済策を「南ア国債格付に悪影響」と判断し、同格付に否定的な見解を示したことで、ランドは大幅に下落した。8月に入るとランドの下落は止まらず、南アの財政赤字拡大懸念に加え、米利下げが市場予想よりも長期化しない可能性が見込まれたことがランド安を誘発した。9月は南アフリカのGDPが発表され、これが市場予想対比明確に上振れたことが好感され、中旬にかけて上昇した。しかしその後は再度下落する展開。要因は二つで、一つは原油価格の急騰、もう一つは政策金利の据え置きである。南アフリカは原油の順輸入国であり、原油価格の高騰により経常赤字拡大が懸念されるとランド売りになりやすい。また、政策金利については、利下げが一部織り込まれていたこともあり、据え置きの判断によってランドは下落する展開となった。

今後の注目は、10月月末の中期予算政策声明(MTBPS)発表や11月1日に予定される大手格付会社による南ア国債格付見直し結果発表となっている。財政赤字縮小、格付けの低下回避等の明確なポジティブ材料がない限り、ランド安はさらに進む可能性もあるだろう。(高根)

	竹内	加藤	関	光石	岡本	上野	原田	玉井	森谷	ブル	ペー
Today	ペア	ペア	ペア	ブル	ペア	ブル	ペア	ペア	ペア	2	7
Week	ペア	ペア	ペア	ブル	ブル	ブル	ペア	ペア	ペア	3	6